

令和 8 年度

熊本県立大学 総合管理学部

総合管理学科

一般選抜(後期日程) 個別学力検査

小 論 文

問 題 用 紙

- (1) 問題用紙は、この表紙を含めて10ページあります。
- (2) 問題は、全部で4問（問題1から問題4まで）あります。4問すべてに答えなさい。
- (3) 解答用紙の指定の欄に、受験番号、氏名を記入しなさい。
- (4) この問題用紙及び下書き用紙は持ち帰って結構です。

(入試問題は、4 ページからです。)

(入試問題は、4 ページからです。)

問題1 資料1-1、資料1-2を読んで、以下の（１）から（３）の問いに答えなさい。

- （１） 資料1-1に書かれている、子どもの幸福度を評価するための３つの項目を日本語で答えなさい。また、３つの項目のうち、日本において順位が前回調査から変わらなかった項目を日本語で答えなさい。
- （２） 日本において、子どもの幸福度の順位が前回調査から上昇した理由について述べられている箇所を、資料1-1から２つ抜き出し、和訳しなさい。
- （３） 資料1-2を読み、子どもの幸福度を評価するための３つの項目の順位に関して、下記の①と②それぞれの３ヵ国に共通する特徴を日本語で述べなさい。
 - ① オランダ、デンマーク、フランス
 - ② 日本、韓国、スロベニア

問題2 資料2-1、資料2-2を読んで、以下の（１）、（２）の問いに答えなさい。

- （１） 資料2-1は、10歳～14歳を対象に、孤独感（質問「あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。」）を尋ねた結果を表している。性別や年齢による違いに着目して、資料2-1から読み取れることを150字以内で述べなさい。
- （２） 資料2-2は、10歳～39歳を対象に、“家庭”、“学校”、“地域”、“インターネット空間”の４つの場ごとに、“安心できる場所になっている”、“相談できる人がいる”、“助けてくれる人がいる”の３項目について、肯定的な回答（「そう思う」+「どちらかといえば、そう思う」）をした者の割合を示している。他の場と比較して、“地域”の特徴を200字以内で述べなさい。

問題3 資料3を読んで、以下の（１）から（４）の問いに答えなさい。

- （１） 空欄（A）に入る「人によってそれぞれ違うこと」を表す四字熟語を答えなさい。
- （２） 空欄（B）から（D）について、適切な漢字二文字を入れ、慣用句を完成させなさい。
- （３） 下線部の自分の仮説とは何か、本文中の言葉を用いて述べなさい。
- （４） 「朋輩組」を含む海部町のコミュニティの特徴を、本文中の言葉を用いて30字以内で述べなさい。

問題 4 日本の子どもの幸福度を向上させるための具体的な取り組みを提案し、その理由も合わせて500字以上600字以内で述べなさい。ただし、提案の理由は資料1-1・資料1-2・資料2-1・資料2-2・資料3の5点のうち2点以上を参考にし、資料の内容にふれつつ述べなさい。また、参考にした資料が分かるように明記しなさい(例：資料1-1より、…)。

資料1-1

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(出典) “Japan ranks 14th in UNICEF child well-being survey”, *The Japan Times*, May 14, 2025.

comprehensively 包括的に

evaluate (…を) 査定する、評価する

Research Center for Child and Adolescent Poverty 子ども・若者貧困研究センター

attribute (…に) 帰する

著作権保護の観点から、図表は掲載していません。

(出典) UNICEF Innocenti – Global Office of Research and Foresight, *Innocenti Report Card 19: Child well-being in an unpredictable world*, UNICEF Innocenti, Florence, May 2025. p. 5 (一部改変)

出題者注：濃い色は下位 3 分の 1、中間の色は中位 3 分の 1、薄い色は上位 3 分の 1 であることを示す。

資料2-1

著作権保護の観点から、図表は掲載していません。

資料2-2

著作権保護の観点から、図表は掲載していません。

(出典) 内閣府政策統括官(政策調整担当)「こども・若者の意識と生活に関する調査 報告書 令和5年3月」p. 19, p. 153 (一部抜粋、改変)

資料 3

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

(出典) 岡檀(著)「^い生き^ご心地^ちの^よ良い^{まち}町—この^じ自殺^{きつりつ}率^{ひく}の^わ低^けさには理由がある」、株式会社講談社、
2013年、pp. 42-46 (一部改変)